

3 本市における調査結果の概要

■ 教科に関する調査結果

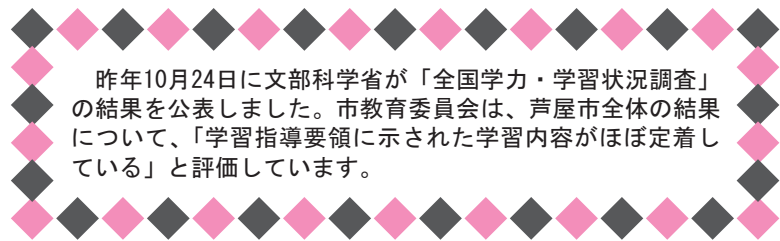
【結果の示し方】 達成・平均正答率が80%以上のもの
 おおむね達成・平均正答率が50%以上80%未満であったもの
 課題・平均正答率が50%未満であったもの

【概況】 市全体の大方の傾向を記したものを

芦屋市全体の傾向				
教科	区分	結果	概況	
小学校6年	国語	A(知識)	達成	○国語、算数ともに、「知識」に関する結果は、十分評価できる。 ○「活用」に関する結果は、全国の状況は上回っているものの、さらに取り組むべき課題といえる。
		B(活用)	おおむね達成	
中学校3年	国語	A(知識)	達成	○国語の「知識」に関する結果は、評価できる。 ○国語の「活用」および数学の結果は、全国平均は上回っているものの、さらに取り組むべき課題といえる。
		B(活用)	おおむね達成	

平成19年度 全国学力・学習状況調査結果(概要)

問い合わせ 学校教育課 ☎38-2087



【関連ホームページ】
 ○学校教育部「平成19年度全国学力・学習状況調査結果」
<http://www.edu-ashiyajp/>
 ○文部科学省「全国学力・学習状況調査関連」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/

1 調査の概要

調査の目的

全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育および教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。

各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育および教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習状況や学習意欲の向上につなげます。

調査の対象学年

小学校第六学年、中学校第三学年の全児童生徒

調査実施日

平成十九年四月二十四日

調査の内容

■教科に関する調査
 ・主として「知識」に関する問題
 ・主として「活用」に関する問題
 【国語A、算数・数学A】
 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容／様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など
 ■生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 調査結果の公表

国・県の基本方針

文部科学省および兵庫県教育委員会は、調査結果についての取り扱いを次のとおりとしています。

本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえ、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮します。また、公表にあたっては、市町においては平均正答率等の数値は行わないこととしていきます。

本市の基本方針

本市においては、調査結果を十分に把握・検討し、今後の教育実践や施策に反映していくことが重要であると考えます。その基本的な考えのもと、説明責任を果たすためにも市全体の結果についての概要を示すこととしていきます。

ただし、国や県の助言に基づき、公表にあたっては、学力に関しては、平均正答率等の数値による公表は行わないこととしていきます。



5 課題解決に向けて必要な取り組み

学習全体における課題に向けて

■小学校低学年から中学年までは、体験的な理解や具体物を活用した思考や繰り返して学習する工夫により「読み・書き・計算」の能力の育成を重視し、学習の基盤をつくること

■中学年から高学年にかけては、討論・観察・実験による思考や理解促進を重視する指導の工夫

■家庭と連携のもと、音読、暗記・暗唱、反復練習などによる、体験的・身体的な理解

生活習慣と学習環境の課題に向けて

■児童・生徒がますますきやすい内容の確実な定着を図るためのきめ細かい個に応じた指導

■思考力・判断力・表現力等を確実に高めるために、観察実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させること

■「基本的な生活習慣の育成」「家庭学習の習慣化」など、学校としての取り組みを進めながら、各家庭と一層の連携・協力を図ること

■「規範意識の向上」については、学校内だけの約束事にとどまらず、広く社会における秩序や規則などについても理解するとともに、実践できる態度を地域や家庭との連携のもとで進めていくこと

■読書活動の充実のために、小学校では、日常的に読書に親しむための指導、中学校では、読書をより豊かなものにするための指導を位置付け、読書活動を推進するとともに、読書の習慣を身につけるために、学校としての取り組みに加え、家庭、地域と連携を強化した取り組みを進めること

■ 児童生徒の生活習慣や学習環境に関する質問調査結果の概要

全国の状況を参考に市の顕著な状況を示したものを抜粋したものを

問題	内容	校種	芦屋市	全国
1	朝食を毎日食べていると答えた割合	小学校	87.4%	86.3%
		中学校	74.0%	80.5%
2	学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に「確かめている」「どちらかといえば確かめている」と答えた割合	小学校	82.6%	85.2%
		中学校	85.1%	83.1%
3	勉強する時間を自分で決めて実行「している」「どちらかといえばしている」と答えた割合	小学校	54.6%	51.8%
		中学校	34.6%	38.2%
4	外に出て遊んだり、運動スポーツをして体を動かしたりしていると答えた割合	小学校	50.1%	58.3%
		中学校	61.4%	62.9%
5	学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たり2時間以上勉強すると答えた割合	小学校	56.5%	25.5%
		中学校	42.7%	35.4%
6	読書は「すき」「どちらかといえばすき」と答えた割合	小学校	69.7%	71.3%
		中学校	64.4%	67.9%
7	家や図書館で、普段(月～金)、1日に1時間以上読書をする」と答えた割合	小学校	18.2%	17.6%
		中学校	12.3%	14.1%
8	家や図書館で、普段(月～金)、読書を全くしないと答えた割合	小学校	19.9%	21.2%
		中学校	41.7%	37.7%
9	家の手伝いをよくしていると答えた割合	小学校	19.2%	28.1%
		中学校	16.9%	18.6%
10	今住んでいる地域の行事に参加していると答えた割合	小学校	14.7%	33.2%
		中学校	7.6%	13.2%
11	国語の授業の内容は「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた割合	小学校	78.1%	78.0%
		中学校	64.1%	65.4%
12	算数(数学)の授業の内容は「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた割合	小学校	79.6%	77.1%
		中学校	68.4%	63.6%

【概評】

○朝食を毎日食べている割合が、小学校では全国の状況をやや上回っているが、中学校では、やや下回っている。

○小・中学校において、家の手伝いをしている割合は、下回っている。

○地域に行事に参加している割合が、小・中学校とも下回っている。

○外に出て遊んだり、運動したりする割合が、小・中学校ともやや下回っている。

○学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たり2時間以上勉強すると答えた割合は、小・中学校とも大きく上回っている。

○読書活動に関しては、全国の状況に比べて下回っている。



6 今後の教育委員会の取り組み

教育委員会では、市の児童・生徒の「人間力(生きる力)」の向上、学力向上のために、本調査の結果を活用し、次のような取り組みを進めます。

■「学力向上推進委員会」の設置
 本調査結果の詳細な検証・今後の指導や施策への提言

■「学力向上支援事業」の深化充実
 ・学力向上パワーアッププランの充実
 ・チャーター活用策の研究

■読書習慣確立を支援するための施策
 ・読書冊数等を全国レベルに引き上げる
 ・家庭、地域、行政等関係機関の参画と協働

国語

小学校第6学年

算数

問題	領域	結果	概況
A(知識)	話すこと 聞くこと	おおむね達成	○話すことに関しては、相手の表情や反応を確かめながら話すことの大事さを、体験を通して学習することが今後の取り組みでも必要である。 ○漢字の読み書きや接続語、指示語など言語事項に関する問題は、正答率が高く、日ごろの取り組みの成果があらわれている。 ○目的や内容に応じて、必要な事柄を選択したり、書かれた内容を理解したりして文章を書き換える力は、定着している。
	書くこと	達成	
	読むこと	おおむね達成	
	言語事項	達成	
B(活用)	話すこと 聞くこと	おおむね達成	○話し合いを計画的に進行させるための司会者の役割等については、ほぼ理解できている。 ○取り上げられた事実が、どのような理由で述べられているかを的確に読み取り、要約することに一部課題がみられる。 ○文章やグラフなどの資料などの情報を活用し自分の考えをまとめる力は、評価できる。 ○情報を読み取り、選択して適切に表現する力は、評価できる。
	書くこと	おおむね達成	
	読むこと	おおむね達成	
	言語事項	達成	

問題	領域	結果	概況
A(知識)	数と計算	達成	○各領域とも高い正答率を示しており、算数における基礎・基本的な内容は、ほぼ理解し定着している。
	量と測定	達成	
	図形	達成	
	数量関係	達成	
B(活用)	数と計算	おおむね達成	○図形やグラフに関して、目的に応じて数値の大小や変化の様子を読み取る力や資料を分類整理しその特徴をつかむ力は評価できる。 ○複数の情報や資料を統合的にとらえること、与えられた条件のもとで資料を分類整理する力をつけていくことが課題といえる。 ○地図をもとに図形を見だし、比較し説明するなど筋道を立てて考え、さらにその根拠となる考えを説明する力、表現する力をつけていくことが課題といえる。
	量と測定	おおむね達成	
	図形	達成	
	数量関係	おおむね達成	

国語

中学校第3学年

数学

問題	領域	結果	概況
A(知識)	話すこと 聞くこと	達成	○スピーチや電話等、簡潔なメモなどを利用した情報の確認と聞き手を意識した表現力は、評価できる。 ○文脈における自然描写や比喩等の表現技法、歴史的仮名遣いなどおおむね理解できている。 ○漢字や語句に関しての正答率は全体的に高い。しかし、一部「繁茂」の読みや手紙の後付けに関する問題では、全国の状況と同様、正答率が低くなっている。
	書くこと	おおむね達成	
	読むこと	達成	
	言語事項	達成	
B(活用)	話すこと 聞くこと	達成	○話す内容に応じて適切な資料を提示する力は、評価できる。 ○必要な情報を収集し、自分の考え、伝えたい事柄を相手に伝えるように明確に書く記述式の問題は、よくできている。 ○「書く能力」を総合的に向上させる指導の工夫が今後の課題である。 ○複数の資料を比較し、もの見方、考え方の違いや共通する情報を読み取ることを通して、自分が伝えたい事柄や考えを明確に表現することが課題といえる。
	書くこと	おおむね達成	
	読むこと	おおむね達成	
	言語事項	おおむね達成	

問題	領域	結果	概況
A(知識)	数と式	おおむね達成	○正・負の数の四則計算や一次方程式を解く技能については、評価できる。 ○方程式の移項や等式の変形および性質の関係においては、少し課題がみられる。 ○線対称な図形、角の二等分線、図形の空間での位置関係、同位角などに関するものはほぼ理解している。 ○円柱と円錐の体積の関係は全国の状況と同じく低い正答率となっている。 ○ともなっていく2つの数量関係については、反比例や一次関数のグラフおよび確率に関する理解と定着に課題がみられる。
	図形	おおむね達成	
	数量関係	おおむね達成	
B(活用)	数と式	おおむね達成	○情報を的確に処理し、その情報から変化の様子や特徴をとらえることは、評価できる。 ○情報を分類整理して判断したり、問題場面を理想化、単純化してとらえたりすることにおいて課題がみられる。 ○グラフや情報を読み取り、問題解決に向けて構想を立て、結果を振り返りながら数学的に解釈し、表現することについて課題がみられる。
	図形	おおむね達成	
	数量関係	おおむね達成	

